

氏名	小松田 光 眞		
学位(専攻分野の名称)	博士(医学)		
学位授与番号	博 乙 第 2351 号		
学位授与の日付	平成 3 年 12 月 31 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)		
学位論文題目	Changes of lymphocyte subsets in leukemia patients who received allogenic bone marrow transplantation (同種骨髄移植に伴う白血病患者末梢リンパ球亜群の変動)		
論文審査委員	教授 太田善介	教授 辻 孝夫	教授 赤木忠厚

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

同種骨髄移植 (BMT) を施行した 7 例の白血病患者末梢血リンパ球サブセットの変化を 2-color flowcytometry により追跡した。リンパ球数, T 細胞, B 細胞比率は BMT 後 2 ~ 6 ヶ月の間に正常値に復したが, 一部で回復の遅延傾向を認めた。活性化 T 細胞は BMT 後早期に著しく増加を示した後徐々に減少した。全観察期間にわたって CD4⁺細胞百分率は低値を示し, CD8⁺細胞百分率は高値を示した。従って CD4⁺/CD8⁺細胞比率は持続的に低値を示した。CD4⁺細胞百分率の低値は CD4⁺Leu8⁺細胞の減少によるものであり, CD8⁺細胞百分率の高値は主に CD8⁺CD11⁺細胞の増加と関連していた。NK 細胞のうち CD16⁺CD57⁻細胞は BMT 後早期に著しい増加を示したが徐々に正常へと復した。CD16⁺CD57⁺細胞と CD16⁻CD57⁺細胞も BMT 後早期は正常値を示したが, CD16⁻CD57⁺細胞はさらに BMT 後 2 ~ 6 ヶ月の間正常値を越える増加を示した。しかし, BMT 後の急性あるいは慢性 GVHD や他の合併症の発症はいずれのリンパ球サブセットの変動とも関連性を示さなかった。BMT 後の遷延する免疫不全には CD4⁺細胞の Leu8 抗原発現不全あるいは抑制性 T 細胞 (CD8⁺CD11⁺) の増加が関与する可能性が示唆された。また, BMT 後早期にみられる NK 細胞の増加がこのような免疫不全を代償している可能性も考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究では同種骨髄移植 (BMT) を施行した 7 例の白血病患者末梢血リンパ球サブセットの変化を 2-color flowcytometry により追跡したもので, BMT 後の遷延する免疫不全

には CD4 細胞の Leu 8 抗原発現不全あるいは抑制性 T 細胞の増加が関与する可能性や、BMT 後早期に見られる NK 細胞の増加がこのような免疫不全を代償している可能性を示した価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。